



テスト明けに梅雨と疲れがたまりやすい季節です。読書で息抜きしてみましょう。



## 『ロールモデルがない君へ』

キリーロバ・ナージャ 著 361.5/N

この本は親の転勤のため6か国を転居し成長した著者ナージャが、自身と似たような「周りの子や親とはルーツが違う中で育ってきた人」に、思い出やこれからのみんなへ送るアドバイスを聞いた一冊です。12人の半生は様々で日本や未来への思いも違うけれど、参考になる話が多いはず。



## 『科学メガネ読本』

池内了 著 404/I

雑誌「BIG ISSUE」のコラム「池内了の市民科学メガネ」の連載100回を記念して80篇に再構成した科学エッセイ集です。ノーベル賞で話題のネタから、普段の生活に潜む科学の謎、果ては昔話の荒唐無稽なエピソードの種明かしまで書かれています。科学の目で日常を見直してみましょう。



## 『人体の進化のなごり博物館』

レイチェル・ポリクイン 著 491.3/P

人間の体には、進化の過程で役に立たなくなった「進化のなごり」がいっぱいあります。鳥肌、しゃっくり、親知らず… そんな痕跡器官ばかりをあつめたユニークな博物館をのぞいて見てください。

絵本形式で読みやすく、人体に詳しくなること請け合いの一冊です。



## 『読書する脳』

毛内拓 著 491.37/モ

早くから電子教科書を実践していた北欧諸国が、近年、紙の教科書に戻す動きが出ています。同じ文なのに紙で読むほうがなぜ良いのでしょうか。そんな疑問に神経生理学が専門の著者が、脳の仕組みから「電子の読書」と「紙の読書」の違いを解説しています。



## 『看脚下』

千玄室 著 791.2/S

去年8月14日に102歳で逝去された裏千家大宗匠・千玄室さん。100歳の時に、特攻隊員の青春時代から茶道で外交に奔走した後年まで自らの人生を振り返って書いた自伝的かつ遺言的エッセイ集です。

タイトルは「自らの足元を見よ」という禅語からとられています。



## 『生きとるわ』

又吉直樹 著 913.6/Mata

『火花』で鮮烈なデビューを飾った著者の6年ぶりの長編小説になります。

公認会計士として成功していた主人公。しかし、久しぶりに再会した高校の同級生に600万円ものお金を貸倒しされ、人生が狂っていきます。阪神タイガース優勝など関西人になじみあるエピソードもちりばめられた、怖さあり笑いありの一冊です。



## 『憤怒の人』

杉山響子 著 914.6/S

2026年4月29日に102歳で逝去された佐藤愛子先生。この本は長年同居してきた娘さんが、母の思い出と晩年の様子を書いた週刊誌連載を収録した一冊です。

最晩年、記憶を無くされていった先生を「かなわん人だった」と言いつつ、娘さんの愛情と哀切をもって綴られています。



## 『眼述記』

高倉美恵 著 916/K

著者49歳の時、まだ50代の夫が脳溢血で全身マヒになってしまいます。子供はまだ学生、そこに24時間介護、さらに自らにガンまで襲い掛かりました。このような深刻な状況を、自宅介護の実践から気になるお金の問題まで、漫画とエッセイで軽妙につづった一冊です。

# 今月の新着から

## ■1 哲学

『満月珈琲店の星占い』 望月麻衣 著 148.8/M

## ■2 歴史

『覚悟の磨き方：超訳吉田松陰』池田貴将 著 289.1/Y

『こども東北学』 山内明美 編 292.1/Y

## ■3 社会科学

『「くうき」が僕らを呑みこむ前に』

山田健太 著 311.7/Y

『図解でわかる14歳から知る世界の格差と資源危機』

インフォビジュアル研究所 編 336.1/I

『群集心理：ル・ボン』 武田砂鉄 著 361.44

『人間の条件：そんなものない』

立岩信也 著 361/T

『「だれにもいっちゃだめだよ」に従ってしまう子供たち』

桜井鼓 著 368.64/S

『おてらおやつクラブ物語』 井出留美 著 369.2/I

## ■4 自然科学・医学

『結局、ウナギは食べていいのか問題』

海部健三 著 408/I/286(b)

『ゲノムでたどる古代の日本列島』

斎藤成也 著 469.91/S

『アフター・サピエンス』 北村雄一 著 480.4/K

## ■5 技術・工業・生活科学

『ファッション革命：目指せ！持続可能なスタイル』

レイナ・デライル 著 527/Y

## ■6 産業

『環境・エネルギー問題を解決する』

関根佳恵 著 611.7/S/2

## ■7 芸術

『はだしのゲンわたしの遺書』 中沢啓治 著 726.1/N

『日本の名茶碗100原寸大図鑑』 751.1/S

## ■8 言語

『英語で楽しむ日本昔ばなし』

カルラ・ヴァレンタイン 著 831.1/V

『やさしい英語で読む世界のおとぎ話』 837.7/L

## ■9 文学

『チーム豊臣！』 楠木誠一郎 著 913.6/Ku

『僕のデフブラらいふ』 門川伸一郎 著 916/K

## 絵本

『すうじのないまち：算数障害の絵本』

濱野京子 著 P91/H

『ひとがみたらカエルになあれ』

いもとようこ 文・絵 P91/I

『はだかのおうさま』 いもとようこ 文・絵 P91/I

## 文庫・新書

『記憶と脳の探求』 櫻井芳雄 著 081.9/I/1008

『自他の境界線を育てる』 鴻巣麻里香 著 081.9/チ/514

『水中遺跡はそこにある』

佐々木ランディ 著 081.9/I/516

『チョコレートと日本人』 市川歩美 著 588.34/I

『AI時代になぜ英語を学ぶのか』

町田章 著 830.4/マ

『My Father's Dragon (エルマーの冒険)』

Ruth Stiles Gannett 著 837.7/K/161-I

『Rudolf and Ippai Attena』

斎藤洋 著 837.7/K/210

『Botchan』

夏目漱石 著 837.7/K/8-I

『Night Train to the stars and other stories

(銀河鉄道の夜 他)』 宮沢賢治 著 837.7/K/31-I

『虚構船団』

筒井康隆 著 913.6/ツ

『有罪、とAIは告げた』 中山七里 著 913.6/ナ

『おちゃめなパティ、カレッジへ行く』

ジーン・ウェブスター 著 933.7/ウ

